

熱中症防止に伴う大会運営について

(公社)千葉県サッカー協会第4種委員会

<趣旨>

選手の生命を守り安全に大会を運営するに当たり、公益社団法人千葉県サッカー協会第4種委員会が主管する大会及びそれに繋がるブロック大会について、下記の通り基準を定め大会を運営する。

- 1 JFA「熱中症対策ガイドライン」の遵守を必須とする。
- 2 WBGT(暑さ指数)測定計を各会場に設置する。
 - WBGT=31℃以上となる時刻に、試合を始めない。(キックオフ時刻を設定しない。)
 - WBGT=28℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は、
 - ①ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。(必須)
 - ※全選手/スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペースを確保する。
 - ②ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
 - ※天然芝等の上でも、養生やバケツの設置等の対策を講じて会場管理者の了解を得る。
 - ※了解を得られない場合は、ベンチ直近箇所にスポーツドリンク飲水場所を確保する。
 - ③審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
 - ④熱中症対応が可能な救急病院を準備する。当直医の確認と協力依頼を事前しておく。
 - ⑤「Cooling Break」(クーリング ブレイク)を設ける。
 - WBGT=25℃以上の場合は、「Cooling Break」または飲水タイムを設ける。
 - ▽8人制サッカーのような「自由な交代」が可能な試合についても、ガイドラインに沿って「Cooling Break」または飲水タイムを設ける。
- 3 WBGT計測方法
 - ①必ずピッチ上で、WBGT計の黒球が日影にならないように計測する。計測時のWBGT計の高さは、プレーする選手の年齢の平均身長 \times 2/3とする。
 - ※小学3年生89.0cm 小学4年生92.7cm 小学5年生96.9cm 小学6年生101.9cm
 - ②計測する時間はできる限り試合開始の直前で、両チームに対応方法を伝達できるタイミングとする。
 - ③試合中もピッチに近い場所で計測し続け、数値を把握する。(数値、時間を記録)
 - ④ハーフタイム時(できる限り後半開始の直前)の数値により後半の対応方法を決定し、両チームに伝達する。
 - ※原則として、前後半のプレー中に数値が変わっても対応方法の変更はしない。
- 4 「Cooling Break」とは
前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に3分間の「Cooling Break」を設け、選手と審判員は以下の行動をとる。
 - ①日影にあるベンチに入り、休む。
 - ②氷・アイスパック等で身体(頸部・脇下部など)を冷やし、必要に応じて着替えをする。
 - ③水だけでなくスポーツドリンク等を飲む。

◎「Cooling Break」の留意点

- 原則として試合の流れの中で両チームに有利・不利が生じないようなアウトオブプレーの時に、主審が判断して設定する。
- 戦術的な指示も許容する。（飲水タイムと異なる）
- チームが、身体を冷やすための器具を持ち込む際は、事前に大会運営責任者の了解を得る。
- 審判員は「Cooling Break」の時間を遵守するため、試合再開時には選手に速やかにポジションに戻るよう促すと同時に、出場選手の確認を行う。
- 「Cooling Break」に要した時間は「その他の理由」によって費やされた時間として前後半それぞれの時間に追加（アディショナル タイム）される。
- 「Cooling Break」を設定する場合は試合前またはハーフタイム時に両チームに伝達する。また、WBGT値に応じて、前半と後半の対応が異なる場合がある。

【資料】

WBGT=31℃になる場合の気温、湿度

気温℃	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
湿度%	100	90	85	80	70	65	60	55	50	45	40

WBGT=28℃になる場合の気温、湿度

気温℃	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
湿度%	100	90	85	75	70	65	60	50	45	40	35

WBGT=25℃になる場合の気温、湿度

気温℃	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
湿度%	100	90	85	75	70	60	55	50	45	40	30